



TITLE:

高崎山自然動物園におけるニホンザル遺体の発掘(III 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

田隅, 本生

CITATION:

田隅, 本生. 高崎山自然動物園におけるニホンザル遺体の発掘(III 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1976, 6: 52-52

ISSUE DATE:

1976-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162675>

RIGHT:

と思う。

研究報告

稲垣 晴久 ((財)日本モンキーセンター)

1) 研究の目的

1. 各種サル類の RaBA-3010 による生理的な血液性状をあきらかにする。
2. 各種サル類の血中電解質生理値をあきらかにする。
3. 疾病時の血液性状の変化をあきらかにする。

2) 研究の計画

1. RaBA-3010 を用いて、霊長類研究所で飼育されている外国産サルの血液性状をあきらかにする。
2. 炎光光度計を用いて上記サルの血中のナトリウム、カリウムを測定する。
3. 疾病サルについても上記 1, 2 の検査をおこない臨床診断の重要な手段にしていく。

3) 研究の経過

当初計画した外国産サル類は、この共同利用研究期間中入手される機会にめぐまれなかった為、霊長類研究所で飼育中のアダルトのニホンザルのオス20頭の血液について検査をおこなった。また当初予定していなかったが、霊長類研究所のサル施設の方々のご協力、従来より使用されている検査方法による各種血液性状値と、今回使用した RaBA-3010 による結果との比較検討をおこなった。

4) 研究の成果

1. 筆者は従来より RaBA-3010 を使用してニホンザルの血液性状について検査をしてきているが、アダルトのオスのものは少なく今回の検査で得られたデータは貴重である。したがって、とくに今までのデータと比較して低い値を示した LDH は、飼育条件による違いと思われるが、比較するデータに乏しく今後の課題としたい。
2. 霊長類研究所で従来より採用されている検査方法による結果との比較であるが、2～3の項目については相関性が認められるものもあったが、逆に相関性のない項目も多くあり、ある程度の相関性を期待していた筆者にとってこの結果は意外であった。しかし、検体の量が少ない為にピペティングによる影響が大きいかことや、検査室の条件による影響も考えられ、今後これらの技術的な問題を克服していけば、今回以上の相関性が得られると思う。

5) 研究の考察・反省

今回計画していたが検査することができなかった外国産サルや、疾病サルの血液性状については、今回問題となったピペティングなどの技術的な問題を克服しつつ

データをそろえていきたい。そして将来はできるだけ多くのサル類の血液性状と、各種疾病時の血液性状とをあきらかにしていき、サルの臨床に役立てていきたい。

高崎山自然動物園におけるニホンザル遺体の発掘

田岡 木生 (京大・理)

本件は共同利用研究の一課題であるが、研究そのものではなく、研究の素材としての資料の収集を目的としたものである。

ニホンザルについては半自然状態における社会生活の実態がよく研究されているのに比べて、その形態学的諸側面の究明は著しく立ち遅れている。骨格研究に関しては、資料の入手がきわめて困難であることがその一因である。変異が問題となる研究のためには、一つの個体群としてまとまった相当多数の標本が必要であるが、そのようなコレクションはおそらく本邦にはない。こうした必要性から筆者らは、無理なく骨格標本を入手しうる個体群として大分市高崎山のそれに着目し、長期にわたりこれを収集してゆくことを計画した。

高崎山自然動物園では死亡したサルの遺体が裏山に埋葬されており、それらを回収することについて動物園現場関係者の了解と協力を得ることができた。本年度は2回にわたり発掘を行い、白骨化した全身骨格を合計11体分回収した。第1回分はすでに霊長研に保管されており、第2回の分6体は京大動物学教室において清掃・整備中で、近日中に霊長研へ移す予定である。先年同動物園で発掘されたものと合わせて、約20体分が霊長研に収集されることになる。

自然動物園の現場当局との協定により、今後はサルが死亡したときは計画的に埋葬してもらい、2年に1度まとめて発掘し、骨の回収を続けてゆく予定になっている。なお、回収して整備の終わった遺骨の帰属先は未定である。当分霊長研で一括保管するが、将来大分市へ博物館資料として返還する可能性が保留されている。

膝状体外視覚系の解剖学的機構に関する研究

川村 祥介 (熊大・医)

近年各種哺乳動物において網膜より外側膝状体を経て視覚領皮質に至る経路の他に、視覚に関する情報を網膜より中脳、ことに上丘および視蓋前域さらに背側視床後部核群を経て皮質に伝える経路が知られるようになった。我々もこのことをネコを用いて解剖学的に確認し、さらにこの系の網膜局在を明らかにしたが、比較解剖学的にみるとこの系のうち、霊長類においては第一次中脳である上丘が退化するのに反して、第二次中脳である視